

学校法人愛和学園
登録日本語教員養成機関・登録実践研修機関
自己点検・自己評価報告書（令和 8 年 5 月実施）

1 自己点検・自己評価の目的

本報告書は、学校法人愛和学園における登録日本語教員養成機関及び登録実践研修機関としての取組について、自ら点検・評価を行い、その結果を今後の改善に生かすとともに、公表するために作成するものである。

2 対象期間及び対象

令和 7 年度において、本学園の養成課程は令和 7 年 11 月に開始し、令和 8 年 7 月末の修了を予定している。また、実践研修は令和 8 年 8 月開始予定であり、本報告書作成時点では未開講である。そのため、本報告書では、主として養成課程の実施状況及び実践研修の実施に向けた準備状況を対象として自己点検・自己評価を行った。

3 自己点検・自己評価の内容

（１）教育課程及び授業運営

養成課程については、登録日本語教員養成機関として求められる内容に基づき、各科目を体系的に配置している。授業は、受講生が理解を深められるよう、説明、意見交換、振り返りを組み合わせながら進めている。また、授業前後の課題や質疑応答の機会を設けることにより、学修内容の定着を図っている。開講初年度ではあるが、授業は概ね適切に実施できていると判断する。

（２）教員体制及び指導体制

各科目は、それぞれの専門性に応じて担当教員を配置し、主任教員を中心として授業内容や運営上の課題の共有に努めている。また、受講生の学修状況を踏まえながら、必要に応じて担当教員間で情報共有を行い、指導の継続性が保たれるよう体制を整えている。

（３）受講生支援

受講生からの質問や相談に対応できるよう、授業時以外にも連絡手段を確保し、学修上の不安や疑問に対応する体制を設けている。開講初年度であるため、今後も受講生の状況を丁寧に把握しながら、必要な支援のあり方を継続的に見直していく。

（４）実践研修の実施に向けた準備

実践研修は本報告書作成時点では未開講であるが、教壇実習の実施に向けて、実施体制、指導方法、評価の進め方等について準備を進めている。今後は、養成課程で学んだ内容と

実践研修とを円滑に接続できるよう、指導上の連携を一層明確にしていく必要がある。

(5) 施設・設備及び教材

授業の実施に必要な施設、設備及び教材は、概ね適切に整備されている。養成課程においては、授業運営に必要な教材を担当教員が適切に選定し、受講生の学修に資するよう活用している。今後も、授業内容や受講生の実態に応じて、教材及び学修環境の充実を図っていく。

4 今後の課題

本学園の養成課程は開講初年度に当たるため、授業運営、受講生支援、教員間の情報共有等について、実施を通して見直しと改善を重ねていく必要がある。特に、養成課程と実践研修との接続を意識した指導体制の整備、受講生の学びをより深めるための振り返りの充実、自己点検の方法の継続的な改善が今後の課題である。

5 総括

令和7年度は、開講初年度として、養成課程の実施及び実践研修開始に向けた準備を進めた。現時点では、全体として概ね適切に運営できていると評価している。今後は、実践研修の開始も踏まえ、理論と実践の結び付きを一層意識しながら、より質の高い日本語教員養成に努めていく。